

子どもたちの 健やかな成長を願って

十一月は「全国青少年健全育成強化月間」です。これは、青少年が社会における自らの役割と責任を自覚し、心身ともに健やかに成長するよう、それぞれの家庭や地域などで、幅広い育成活動が展開されることを願って設けられたものです。

これからの社会を担っていく子どもたち——たくましく健やかに育ってほしいものです。そこで、子どもの健全な育成にあって欠かせない資質の中から、特に、丈夫な体、社会性、自主性、国際性をどう育てたらよいかについて考えてみました。

丈夫な体をつくる よく遊び、よく運動し……

最近の小学生は、朝からよくあくびをするそうです。また、「疲れ知らず」のはずの子供が、すぐに「疲れた」と言うように

なつたとも聞きます。

現代の子供たちの体格は昔に比べてはるかに大きくなり、一

会が全国の小・中学生六万人を対象に行った調査では、三人に一人以上の子どもが「日ごろ疲



と映る場合が多いようです。見健康そうですが、大人から見ると体力や忍耐力の面でハキがなく「子どもらしくなくなつた」

頭がさえるのは午後から

昭和五十六年に日本学校保健

れやだるさを感じる」と答えています。また、別のある調査報告では「一日のうちで最も頭が

さえるのは午後になってから」という子どもが全体の七割にも上りました。この原因としては、放課後の塾通い、遅い夕食などで子供の生活が「夜型」に移っていること、また、運動不足な

どが考えられます。

しかし、心身の成長にとって最も大切な時期にある小・中学生だからこそ、朝はスッキリとした頭で学校へ行ってもらいたいものです。また、放課後は日が沈むまで遊びやスポーツにエネルギーを使い果たすくらいの元気あふれる生活を送ってほしいものです。

わたしたち大人は、子供を、「勉強、勉強」と追い立てるだけではなく、丈夫な体をつくるということに、もっと関心を持つべきではないでしょうか。

ワンポイント

早寝・早起きを

励行しよう

社会性を育てる

集団生活を

体験させよう……

子どもの世界にも、彼らを取り巻くいくつもの「社会」があります。家族、近所の友達、学校、あるいは地域の集団——子どもたちは、それぞれの発達段階に応じた集団生活の経験を積みながら、少しずつ社会性というものを身につけていくのです。

他人を思いやる心を

しかし、最近の進学熱を見ても分かる通り、大人も子供も、学校の成績第一、勉強を最優先に考えがちです。勉強すること自体は何ら非難されることではありませんが、過度な競争が、ややもすると自分本位の風潮を生んでいる、とも考えられます。

人間は社会の一員として、たえず他人とのかかわり合いの中で生活しているわけで、決して独りで生きていけるものではありません。ですから、受験勉強も大切なことですが、「人をけ落としてまで」という意識があまりに強くなると、やがて子どもも集団の中で孤立してしまふ恐れがでてきます。大切なのは、人と人が信頼感で結ばれているかどうかということです。世の中は助け合いの心で——そのためには、他人を思いやる心を持つことが、何よりも重要なのです。

ワンポイント

計画的な

グループ活動を

させよう